

## 令和3年度 実施事業の概要

教育事業名: 妙高自然体験活動指導者養成研修冬・体験会

期間 令和4年1月8日(土)～10日(月)

対象及び参加人数: 大学生 学校教員 その他

目的: ・自然体験活動の指導者として幅広い知識と技術をもち活躍できる人材の育成  
 ・妙高のフィールドを生かした自然体験指導者の育成  
 ・自然体験指導者としてのスキルアップと資質の向上

## 事業概要:

上記目的のため、事業を実施した。20名(社会人16名、大学生4名)が参加した。

各講習は、以下のとおりである。

【指導者としての心得】: 富坂 一長 氏 (NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会 理事長)

【子供達への接し方と指導の工夫】: 長谷川 和彦 氏 (上越市立飯小学校 校長)

【自然体験活動の安全管理】: 田辺 慎一 氏 (国際自然環境アウトドア専門学校)

【妙高の自然と「遊ぶ・学ぶ」】: 瀧 直也 氏 (信州大学 講師)

【アイスブレイク】: 金巻 知子 氏 (NPO法人妙高山麓自然体験指導者会)

【スノーシューハイク】: 山口 紀子 氏 (NPO法人妙高山麓自然体験指導者会)

【自然体験活動の技術】: 小林 朋広 ・ 柏川 敦史 (国立妙高青少年自然の家 職員)

成果: 講義では、指導者としての心構えや指導知識を学んだ。特に、「子供たちへの接し方と指導の工夫」では、子供の特性に応じた適切なかわり方について、実践例をもとに具体的な方法を学ぶことができた。妙高の自然と「遊ぶ・学ぶ」では、仲間と協力しながら道具を使った雪像づくりを体験し、雪の特性に触れることができた。深雪探検では、全身を使って雪をかき分けながら冬の森を探検する楽しさを十分に味わった。想像力を働かせ、遊びを工夫する楽しさも味わった。スノーシューハイクでは、冬越しする木の芽や動物の足跡などから、植物や生き物について学んだ。見る、触る、嗅ぐなど様々な体験を通して理解を深めた。また、雪洞をつくり、雪洞内に一晩泊まる雪中泊体験も行った。初めて冬の研修会に参加した方が数名おり、妙高の自然体験活動に対して興味をもってもらうことができた。



## 課題:

指導員の高齢化が進んでおり、若手の育成に目を向け、広く参加者を集めていく必要がある。そのために、広報活動を工夫し、チラシが多くの人の目に触れるように工夫していく。